



CIRのつぶやき



2026.01.01 第69号 私の故郷、ゴビ砂漠



私の故郷でもある、ゴビ砂漠はモンゴルと中国の北部に広がる大砂漠で、面積は約130**平方キロメートル**に及びます。これは、日本の面積の**約3.4倍**にあたります。モンゴル国内では、ゴビ砂漠は南部に広がり、乾燥した気候と厳しい自然環境を作り出しています。日本のような湿潤な気候とは大きく異なり、厳しい風や寒さ、砂嵐などが特徴です。



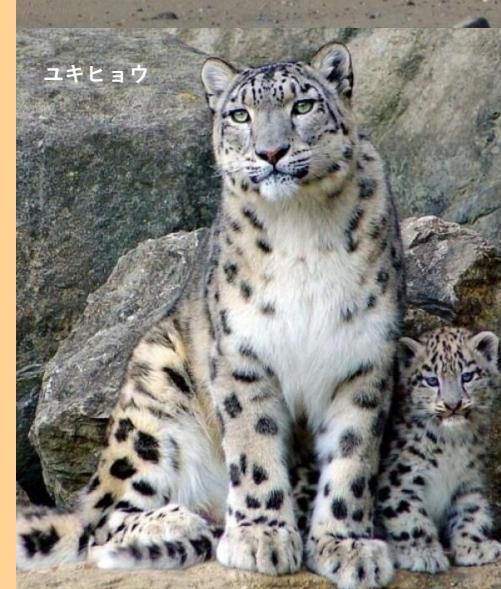
ゴビ砂漠のオアシス



ゴビの熊、マザーライ



ラクダを乗りこなす
遊牧民



ユキヒョウ



世界唯一の野生の馬、タヒ

ゴビ砂漠は、単に砂が広がる場所ではなく、その**自然環境は非常に多様**です。広大な砂丘や乾燥した草原、岩山が広がる一方で、生命の息吹を感じさせる**オアシス**も点在しています。

砂漠の大部分には、特に**乾燥に強い植物や低木**が生息しています。これらの植物は、限られた水分を最大限に活用し、雨季には短期間で成長し、長い乾季に備えるという特徴があります。

動物たちもまた、ゴビ砂漠の過酷な環境に適応しています。代表的な動物には、家畜として重要な**ラクダ**（フタコブラクダ）、野生の馬（タヒ）、稀少な**ユキヒョウ**やゴビのクマなどがいます。

ゴビ砂漠には**遊牧民**も住んでいます。遊牧民は、ゲルを住居とし、馬やヤギ、羊、ラクダなどの家畜を育てながら、季節ごとに移動して生活します。



CIRのつぶやき

2026.01.01 第69号 私の故郷、ゴビ砂漠

ゴビ砂漠が形成された背景には、地理的な条件と地球規模の気候変動があります。かつて、今からおよそ2,000万年前、この地域には広大な湖や森林が広がり、恐竜を始め様々な動物が生息していました。しかし、大陸の移動や気候の大きな変化を経て、次第に乾燥した地域へと変わっていったのです。

ゴビ砂漠は、恐竜の化石が数多く発見される場所として世界的に知られています。特にヴェロキラプトルやティラノサウルスなどの化石が見つかっており、発掘された恐竜の足跡、卵、骨の一部などは、大変貴重な研究資料です。これらの化石は、世界中の博物館などで展示されています。

ゴビ砂漠は大規模な鉱物資源を埋蔵しています。銅、金（オユトルゴイ鉱山）、石炭などが主要資源です。石油、天然ガス、そして特にレアアース（希土類）も豊富です。鉱業はモンゴルの経済成長の最大の牽引力であり、輸出総額の約80%を占めるなど、GDPの大きな割合を占めます。



約5千万年前に、現在のインドがアジア大陸と衝突したこと、ヒマラヤ山脈が出来、約2千万年前から、南の雨雲が来られなくなり、モンゴルの南が砂漠化しました。

